

※翌月、5日までにデータで提出ください。

報告月	5・6月
グループ名	染織ころも

報告内容
※写真があれば添付

5月 展示会の準備

- ・ホールにある旧花台を利用する
花台の底上げ準備（段ボール）
- ・額の制作（大間知さんが作ってくださった材料を使って額づくり、足りない分はメンバーで）
- ・模造紙にスプレーノリで作品を貼り付け、額に張り付ける
- ・額2枚を花台の幅に合わせて貼り合わせる
- ・広報用のちらしと、展示会のあいさつ文の作成

6月 展示会

- ・見に来ていただいた方への対応等
何人かの方が見に来ていただき、説明できるときは説明させていただきました

その他

- ・紗羅織りの進行
- ・展示しきれなかった作品の利用を考える
(服・タペストリー
テーブルセンターなど)



染織ころも 深津鋼次 紗羅織り作品展

糸が導くアンデスの夢

日時 6月1日(土)～6月22日(土) (日曜休み)
時間 10時～17時 (最終日は15時まで)
場所 公益財団法人 あすて (豊田市本町本尾4-3)
入場料 無料

紀元前からアンデスで織られてきた紗羅織り (せらおり)、その繊細さと回廊のない自由さを楽しんでください。

染織ころも 深津鋼次 紗羅織り作品展 糸が導くアンデスの夢
私たちは、あすてで活動しているグループ「染織ころも」です。子ども達にもづくりの楽しさと奥深さを伝える「ものづくり なぜ?なぜ?プロジェクト (2004年度～2013年度)」織機チームのボランティアが、プロジェクト終了後に結成しました。数年前より、メンバーの一人である深津鋼次さんが以前から取り組んでいた紗羅織りにみんなが挑戦しています。
織りは、平織り(経糸と緯糸が垂直に交わる織り)と、もじり織り(隣り合う経糸がからみあって、編み物のような特色を示す織り)に分けられます。もじり織りは、紀元前9世紀ごろ中国やペルーで織られており、日本にもその技法は伝わり、奈良・平安時代には盛んに織られていました。(その技術は途絶えました。) もじり織りの中でも通き通るほど繊細な薄織りものが道です。日本では昭和に入って京香西陣の人間道隆・北村武彦氏(1935～2022年)が復元しましたが、機械化はできず、今でも道の織り手は多くありません。
深津さんは、岐阜県恵理市岩村町在住の江口博之さんから紗羅織りを学び、「現代手織物クラブ公募展」などの公募展で何度も入選されています。道ともじり織りの一種である袷(あじ)を合わせるアンデスの紗羅織りにも取り込んでくれました。
「深津鋼次 アンデスの夢」では、最近の深津さんの作品を展示します。ここ1、2年、深津さんが織ってきた紗羅織りは、あらかじめ図案を用意することなく「手のおもむくまま」旅様を織りだしています。繊細さと自由さの絶妙なバランスは、それぞれの織り手の中におり、それを表現する喜びが生きる喜びにつながる。と私たちに教えてくれるような作品です。
繊細なシット地の仕上げ「手織り模写」タペストリーが制作されました。
*紗羅織りに、ご興味のある方は、
「道織りの世界」『道織』と検索してください。
右のQRコードからでもご来訪できます。

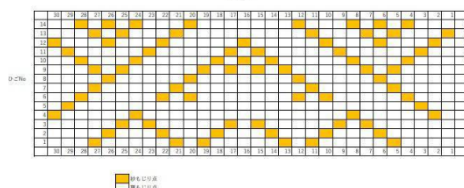
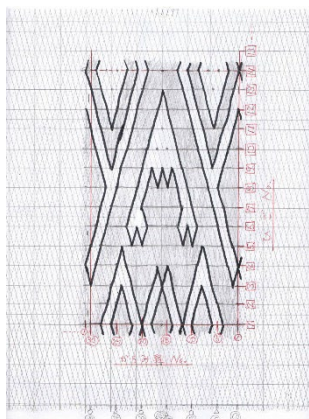
※翌月、5日までにデータで提出ください。

報告月	4月
グループ名	染織ころも

報 告
内 容

※写真があれば添付

1 深津先生が織っていらっしゃった紗羅織りの織物を図案に起こし、紗羅織りの織り方を模索



2 深津先生がリジット機で織られた作品の展示に向け、展示のし方を話し合い。材料集め。

- ・大間知さんに額を作ってもらう
- ・作品はスプレーノリで色付き模造紙に貼り額にはめ込む

3 織機を大間知さんに作っていただくために、材料を集めたり機の寸法を測ったりして準備を進める。